

⑤日本分類  
94 A 62  
132 E 2

⑬ 日本国特許庁  
公開実用新案公報

⑪実開昭49-26384

庁内整理番号 6346-35  
2119-38

⑬公開 昭49(1974). 3. 6

審査請求 未請求

⑤軟膏用容器

- ②①実 願 昭47-66057  
②②出 願 昭47(1972)6月3日  
②③考 案 者 鵜飼正一  
東京都板橋区常盤台2の17の  
14  
同 西井上和夫  
東京都江東区大島3の2の6株式  
会社吉野工業所内  
同 石井宏市  
東京都中野区中野3の19の10  
②④出 願 人 第一製薬株式会社  
東京都中央区日本橋江戸橋3の1  
の2  
同 株式会社吉野工業所  
東京都江東区大島3の2の6  
②⑤代 理 人 弁理士 渡辺軍治

⑤⑦実用新案登録請求の範囲

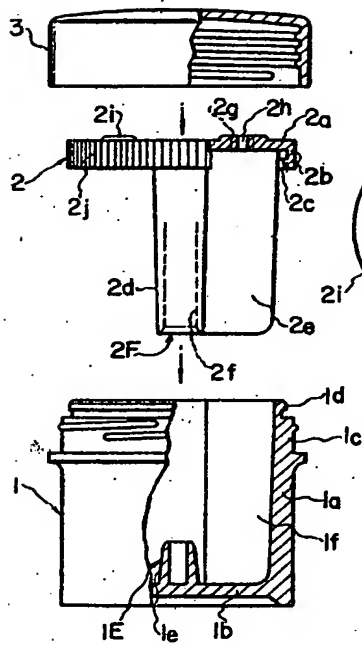
筒状容器本体1及び回動中栓2で構成され所望によりキャップ3付である容器において、本体1は、その周壁1<sub>a</sub>及び底壁1<sub>b</sub>から板状の隔板1<sub>f</sub>を起立設し、かつ、本体1の上端に嵌合部1<sub>d</sub>を周設し、必要に応じ底壁1<sub>b</sub>上面中央に突起設さ

れた係合軸1。若しくは穿凹設された係合軸穴で形成された本体係合部1<sub>E</sub>を有し、回動中栓2は、内蓋部2<sub>a</sub>、その下面中央より垂下設した軸筒2<sub>d</sub>及び内蓋部2<sub>a</sub>と軸筒2<sub>d</sub>より起立設した板状の押圧隔板2<sub>e</sub>とから成り、内蓋部2<sub>a</sub>には押圧隔板2<sub>e</sub>を境にして相互に近接した部分に一方に注出孔2<sub>g</sub>、他方に通気孔2<sub>h</sub>を有し、かつ、内蓋部2<sub>a</sub>の周縁から垂下周設した鍔部2<sub>b</sub>の内周下端に嵌合部2<sub>c</sub>を有し、本体1と回動中栓2を組付ける際に、本体1の嵌合部1<sub>d</sub>と回動中栓2の嵌合部2<sub>c</sub>を嵌合させ、係合部1<sub>E</sub>があるときは軸筒2<sub>d</sub>によつて形成される係合部2<sub>E</sub>を嵌合させ、本体1を回動中栓2で密封閉鎖する状態でかつ離脱困難ではあるが回動可能とし、この際、隔板1<sub>f</sub>の内方端を軸筒2<sub>d</sub>周面に、上端を内蓋部2<sub>a</sub>裏面にそれぞれ密接触せしめ、押圧隔板2<sub>e</sub>の外方端を周壁1<sub>a</sub>内周面に、下端を底壁1<sub>b</sub>上面にそれぞれ密接触させることを特徴とする軟膏用容器。

図面の簡単な説明

第1図は本考案による軟膏用器の分解組立て図を示すもので各構成部品本体、回動中栓そしてキャップの一部を破断した正面図である。第2図は回動中栓の平面図である。

第1図



第2図

